

## 第2回ふるさとパンフレット大賞 審査委員からのコメント

### ○南 伸坊 委員長

魅力あるパンフレットというのは、考え方でいろいろでしょう。情報量、企画編集力、デザイン性、ヴィジュアルのクオリティ。

すべてにわたって高得点というのはかなりむずかしい。すべてにわたってソコソコで結果的に高得点というもの、ある一点に関してはスバラシイという出来上りもある。私は、総合点よりも、一目でこちらに響く魅力にあふれているもの、を選びたいですね。光っているもの、魅きつけるもののある作品。

### ○楓 千里 委員

宇検村のパンフレットには懐かしさが溢れています。セピア色調の写真に村の皆さんの笑顔が広がり、会いに行きたいと思わせてくれました。技が効いている写真のキャプションに、センスがうかがえ編集担当の方はタダモノではない予感が。面白がりながら作った空気感が伝わってきました。大賞の「すさき手帖」は手触りの良さも高評価に繋がりました。手に取ってもらい、保存されるパンフレットは、用紙の選択も重要な要素と言えます。

### ○パッケン 委員

日本とはなんだろう？昔の僕は、日本の地名を聞かれたら「東京、大阪、広島」くらいしか答えられなかったし、イメージを聞かれたら「侍、芸者、新幹線」で止まっていた。そして20年以上日本に住んで、47都道府県を数回ずつ訪れている現在のそんな僕でも、今回のパンフレットを見て、日本をまだまだ知り尽くしていないと思った。行きたいところ、食べたいもの、会いたい人がいっぱい残っている！日本を知るこの終わりなき旅の続きが楽しみだ。パンフを持って出かけよう！

### ○マッケン 委員

選考委員をやらせていただいて僕の中では「あれ～？パンフレットはこういうものだったっけ？」というのが第一印象でした！今回たくさんパンフレットを見させていただきましたが、「なにこれ？と思わず手に取ってみたいくなるようなインパクトのある表紙」「興味深いキャッチコピー」「この奥には何があるの？という全貌を語らない写真や情報」など「全てを見せない見せ方」をするパンフレットが多かったように感じました。また、さまざまなアイデアがパンフレットに組み込まれて、「これを見たら行かずにはいられない！」というパンフレットもたくさんありました。本来パンフレットというのはガイド的な役割のものと思っていた僕には、まさに目から鱗。今までは場所を決めて出かける旅が多かったのですが、これからは、お気に入りのパンフレットを見つけてその地を旅してみるのもいいな～と思うようになりました。

### ○地域活性化センター理事長 椎川 忍

今年のパンフレット大賞は、レトロなデザインでハンディタイプの「すさき手帖」に決まったが、私はもっとほんのりとしたデザインの「信州小川村案内手帖」を理事長賞とさせていただいた。優秀賞には、オーソドックスタイプで良くできている武雄市、下田市のものが入ったが、このジャンルでは競争が激化していてなかなか賞をとるのは大変だ。その点、特別賞の「国見のたからもの」は見事に洗練されていた。マッケン賞となった「天草・宇土半島、スイーツ島の山ガール」はテーマと対象者を絞り込んで、おもしろい企画だと思った。これからはこういったパンフレットが受けるのではないかな。